

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093700013		
法人名	有限会社 福岡医療研究所		
事業所名	グループホーム やさしい時間		
所在地	福岡県筑紫郡那珂川町後野4-10-5 (電話) 092-952-6563		
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 6 日	評価結果確定日	平成 25 年 10 月 9 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

まだまだ自然の残る住宅地の中にあり、地域の公民館、グラウンドなど施設的にも恵まれている場所にある。開設して7年が経過するが、ようやく、地域の方にも周知されるようになってきた。経口摂取が出来ることを大切にし、定期的に歯科にも受診している。昨年より、看取り経験させてもらっている。まだまだ勉強過程の中であるが、人の最期に関わったことのなかったスタッフが、少しずつ関わり方、ケアの仕方を習得していているところである。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 8 月 28 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、昨今開発の進む地域ではあるが、近くを散歩するだけで十分に自然の醍醐味が味わえるのどかな環境の中にある。代表者は、利用者が介護が必要になってもこれまで暮らしていた状況のまま生活をしてほしい、との強い思いから、家庭的な雰囲気とするゆったりとしたホームを7年前に開設した。敷地内にはデイサービスがある。事業所内の共用空間は明るく開放感があり、個室も広めで、利用者が居心地の良さを感じさせる雰囲気である。口腔内のケア・管理には開設時より特に力を注いでおり、夜間は義歯を預かり超音波消毒を行う。開設以降、地域と親交を図る事を課題としたが、代表者をはじめ職員の実力も実り、理想的な交流が日常的に行われるようになってきている。今求められるサービスを一丸となって追求している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みのある地域の中「ゆっくり・ゆったり・穏やかに」の理念の下、安心して過ごしてもらえるようにしている。	「馴染みのある地域の中で ゆっくり ゆったり 穏やかに過ごしていただけるようサービスを提供いたします」という事業所独自の理念には地域密着型の視点もあり、毎朝礼時や月1回のミーティング等で確認をして、理念に沿った日々のケアを全職員で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや餅つきなどの行事にはご家族はもちろん、スタッフ家族や地域住民の方など沢山の方に参加してもらい交流を深めている。	町内会・自治会に加入し、地域の清掃活動・夏祭り・運動会に参加し、事業所主催の夏祭りや餅つきに住民の参加がみられる他、幼稚園児との交流などもある。事業所設立以来、地域の一員としての暮らしを理想とし、地域とのかかわりや近隣住民との接点を増やす事を課題と捉えてきたが、ようやく交流が日常的となり、隣近所の方が立ち寄るような間柄までになった。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表者、民生委員の方に声かけ、説明を行っているが、なかなか浸透していない。また、ホームとしての役割も求められるものが明確になっていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ホームでの取り組み、現状報告を行い、地域の方々、ご家族、行政の方に理解してもらえよう話し合ったり、意見交換を行っている。	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催は定着している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、参加者からの意見・要望・質問等に基づき、サービス向上に生かしている。利用者および家族、町職員、包括職員、町内会役員、他施設職員らで構成されており、今後は民生委員の参加を予定している。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や、事故報告なども早急に報告して、意見、アドバイスを求めている。	日頃から行政へ運営に対する報告・連絡・相談を行っている。地域包括支援センターとの交流もあり、最近では、運営上で困っている事、医療的ケアの必要な方の事などについての相談や些細な事でも行っている。行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には施錠しているが（家族の希望もあり）、日常のケアの場面では身体拘束は基本的には行わず、本人の意思で動いてもらえるよう見守りを行っている。	身体拘束に関する指針・マニュアルはある。家族に説明した上で同意をもらい、終日玄関は施錠している。職員は施錠されている事で安心せず、利用者の外出傾向を把握、見守り等を行っている。近所の方へ理解を求めるような働きかけは特に行っていない。また身体拘束については実務上での指導は行っていないが、研修の機会を設けておらず、記録等もない。	利用者の安全を確保しつつ、短い時間からでもケアの工夫に取り組み、施錠しない支援を実践して欲しい。また、身体拘束についての研修の機会を設け、研修記録等を保管して職員が理解を深められるよう、具体的な計画を立てて取り組んでいただきたい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	意識できていない虐待もある可能性もあるので今後、見落としがちな部分での勉強会を行っていく。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者にその対象者がいないため、スタッフの意識も低いと思われる。今後も研修会などがあれば参加したり、ホームない研修を行っていく。	権利擁護に関する制度に関しては、必要な場合や相談があった場合に随時説明をしている。職員間での研修は行っておらず、テキストやパンフレット等もない。現在1名の方が成年後見制度を利用されている。	折に触れ利用者・家族への説明の機会を設けると同時に、職員に対しては、研修などを通して理解・必要性の認識を深めていただきたい。パンフレット等の準備をお願いしたい。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が面会にこられた時や、年2回の懇親会、ケアプラン更新時などに説明を行い、ご家族からの不安を吸い上げるよう努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間行事の後に懇談の場を設けて、意見交換を行い、御家族の希望を聞きながら日々のケア、運営に生かしていくよう努力している。	利用者・家族が運営推進会議に参加し、意見や思いを述べる機会がある。利用者の願いや要望等については、速やかな対応につなげている。家族には面会時にも職員から声かけをして、年2回、家族との懇親会を開催するなど、話しやすい環境づくりに努めている。事業所以外の苦情の申し出先についても、繰り返し説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度スタッフ会議を行い、入居者様の状況や現場の実情を報告し、意見交換しながら改善していくようにしている。	自己評価は全職員で取り組んでいる。申し送りノートなどを通じてのほか、ミーティングなどの中で、意見や気付き等何でも言える環境にある。管理者はそれを積極的に運営に取り入れている。離職は最小限に抑えており、職員が交替する時の引継にも十分時間を取っている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人に負担がかからないように、各委員会を設け、仕事を分担し職員同士が協力して仕事を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別に関係なく、20歳代～50歳代の幅広い職員が、お互いの個性を尊重し意見交換しながら働いている。	採用選考において、性別や年齢等を理由に対象から排除する事はない。また、資格取得の支援にも前向きで、安心して働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の中で適宜説明は行うものの、具体的否取り組みには至っていない。	人権に関する研修に参加しておらず、資料等がない。	研修への参加を通して全職員が理解を深めると同時に、テキスト等を保管し、職員がその後もいつでも研修内容を振り返ることができるようにしていただきたい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協議会で行われる新人研修他様々な研修に該当するスタッフに受講してもらっている。また、業務に必要な排泄や薬についての研修を、事業所内で講習してもらっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会や、地域の介護保険事業所との懇談会、研修会で情報交換したり、関係を持つよう努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは入居者様の意見を聴き、不安を取り除き、安心して暮らしていい場所だと思ってもらえるよう、笑顔で関係づくりをしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話をしっかり聴き、本人の思い、御家族の思い、ご家族間の思いなどをとらえられるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	本人の状況、御家族の状況をよく観察し、ま た、話を聴き、入居がベストと思えば提供で きるよう話をする。また、馴染めるかどうか もあるので、体験入居を勧めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	会話でのコミュニケーションはもちろん洗濯 物をたたんだり、家事作業や塗り絵などの趣 味も一緒に行い、ともに過ごせるようにして いる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	季節ごとの衣替え、病院受診、面会などを継 続しながら、ご家族が面会にこられた時には 日頃の様子などを伝える。また、月に1回通 信を発行し、職員が必ずコメントを載せてい る。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけではなく知人、友人の方々の面会 もあっている。時にはスタッフも一緒になっ て話しをさせてもらっている。	管理者および職員は、利用者の馴染みの場所 や人について利用者本人や家族などから把握 している。知人に訪問してもらったり、親族 や知人に電話や手紙で連絡をとったり、利用 者が馴染んでこられた関係や、地域住民との つながりを継続できるよう支援に努めてい る。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話を楽しんでもらえるようス タッフが間に入ったり、ご家族も面会にこら れる度に他の入居者とも顔なじみとなられ、 一緒に過ごしてもらっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退居となるのは長期の入院がほとんどなの で、スタッフが面会に伺ったり、亡くなられ た時には、お別れに伺い、思い出話をしてい る。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様が話されることには必ず傾聴し、思いを理解したうえで本人らしく過ごしてもらえるよう話し合っている。	職員は日々の関わりの中で、利用者に声かけを行い、表情・しぐさ・言動から、要望や意向等把握するように努めている。意志疎通が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様1人1人がその人らしく暮らしていけるよう、馴染みの暮らし方に沿うよう無理せずゆっくりとケアをしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることはして頂き、出来ないことだけお手伝いすると言う気持ちを持ち、焦らず1人1人の現状に沿うようにケアしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のスタッフ会議や担当者会議などで、アイデアや意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成できるよう努めている。	利用者本人・家族・職員や医師の気づきや意見を取り入れながら、個別具体的な介護計画を作成し、家族からは介護計画を了承した署名と捺印をもらっている。3ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、その都度家族へ報告をして了解を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様のとられた行動や発言された言葉などを記録に書きとめ、ケアに生かしていけるよう何かのヒントになるよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の状況の変化、不安、疑問の相談を受けたときはその都度できる範囲での取り組みを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや餅つきに参加して下さる地域住民の方々のほかにも、近くの幼稚園児の訪問、ボランティアの方々の訪問などを受け入れている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々の主治医への受診は基本であるが、様々な理由で出来なくなった場合、ホームに往診に来てもらっているDrに往診してもらっている。	利用者のかかりつけ医やこれまでの受診経過、受診希望病院の把握を入所時に行っている。いままでのかかりつけ医希望の場合は、家族が受診付添をしている。事業所に定期的に往診にみえる医院があり、入所を契機に嘱託医に変更される場合もある。家族と情報を共有するように努めている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じて、状態の変化や異常にすぐに気づくことが出来るよう見守りを重視し、変化が起きた際は報告相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は面会を定期的に行い、ご家族に現状を聞いたり、必要なときは入院先の主治医やSWと面談を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	懇談会でいつ体調の変化があってもおかしくない年齢であることを伝え、重度化した入居者さま、ご家族と何回も話し合いを持ち（必要時は主治医を含む）、納得していただけるケアを提供できるよう努力している。	重度化や終末期のあり方について、家族希望時は看取りをするという内容を明文化している。契約時にアンケートの形で家族に看取りの意向を確認している。利用者・家族の意向を大切にしながら、職員・医師・家族で、必要時状況に応じて、話しあって合意をはかり、方針の共有と支援をしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時に慌てずに確実に適切な行動がとれる様、対応についてのマニュアルがあり、職員一同が把握している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。設定は日勤帯、夜勤帯と想定を変えての訓練を通して、いつ災害、火事に遭遇しても対応できるように努めている。	災害マニュアルが作成されており、年2回避難訓練を実施している。避難経路の確認・消火器の使い方・通報を消防署の協力を得て行っている。地域住民に避難訓練参加のよびかけをしている。来年の3月頃地域と共同で避難訓練をする予定がある。非常用備品については、収納スペースの兼ね合いから検討を重ねているが、いまだに準備できていない。	非常用備品の準備と職員への周知徹底および期日管理を早急にお願いしたい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気を配り、目上の方であるということをお忘れないようにしている。名前を呼ぶときも最初にどう読んだらいいかを確認したうえで呼んでいる。	利用者の人権を尊重し、プライバシーに配慮しながら、入浴・排泄等の介護を行っている。管理者は、日々のあり方について、職員の介護や会話の場面を点検し、プライバシーをそこねないように注意している。ミーティング時に管理者がプライバシーの確保について折をみながら、話をして職員の意識向上に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に沿うように日常の会話の中で、本人の望み、要望を確認しスタッフが共通理解できるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースで過ごしてもらえよう、居室に戻りたい方、TVを見たい方、趣味の時間を過ごしたい方、思い思いに過ごせるように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性入居者には髭剃りを日課に、女性入居者にはお化粧をされる方には鏡を準備し、おしゃれを楽しんでもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを利用しているが、夕食時には調理スタッフによる食事を提供している。片付けも出来る方には食器拭きなどをしている。	調理は専門の職員が行い、食後の片付け等は一緒に行う。食事の形態や嗜好には希望を確認して献立に取り入れる事もある。減塩食の利用者は配食サービスを利用している。職員は、一緒に同じテーブルで同じ食事を食べ、時間がかかる方に対しても、食事が苦痛でなく、楽しいひとときになるような工夫を講じている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足にならないように、飲水量をカウントして水分確保をしている。食事はバランスよく栄養摂取できるよう小鉢で提供したり大皿にご飯と一緒に盛り付けたりと、1人1人に合わせた配膳を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、自分で出来る方は自分で、出来ない方のみ介助している。たとえ義歯脱着だけでも自分で行ってもらう。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員にトイレ誘導を行い、トイレで排泄してもらうようにしている。尿意はない方でも、起床時、就寝時、日中も時間をチェックしてトイレに誘導している。	利用者の排泄パターンを把握したうえで、トイレに行きたいしぐさやサインがみられたら、トイレ誘導をしている。本人の身体機能に応じて、声かけや介助をしている。パットやおむつ使用については、随時種類や使用する時間帯を見直すようにしている。失禁時は、本人の自尊心を傷つけないように、直接的な言い方で誘導しないようにしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便の確認を行っている。必要に応じて下剤の内服をしてもらうが、適宜、回数は検討しながら改善している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	最低週2回は入浴できるように計画している。拒否がある方もおられるので、声かけに注意して、午前中のほうが入ってもらえる方も多いので入浴を午前中に行ったりとこの希望に沿うようにしている。	利用者の今までの生活習慣や要望に合わせて、入浴できるように、毎日入浴準備をしている。入浴時にゆったりと会話をするようにしたり、好みの湯の温度でお湯の準備をするようにして、入浴を楽しんでもらえるようにしている。入浴を嫌がる利用者は、本人の受け入れやすい時間帯の入浴の声かけをしたり、時間や職員を変えて対応したりしている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前は家でよく休息されていた方、年齢、体力的な問題で昼寝が必要と思われる方は居室でゆっくりと休んでもらっている。昼夜逆転となりそうな方は日中活動してもらえるような働きかけを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、誤薬を防ぐため、「服薬チェック表」を作成し確認を行っている。与薬の際は日付、名前を声だしチェックを行う。薬に関する勉強会を薬剤師に来てもらい講習をしてもらっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月季節を感じる事が出来るような行事を行ったり、レクレーションとして毎日歌や体操を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクではご家族スタッフも一緒にバスで出かけ、外での食事、家族のと食事を楽しんでいる。日頃は天気のいいときに散歩し季節を感じている。	天候や利用者の体調に応じて週1～2回の散歩や3ヶ月に1回の外食、季節に応じた桜の花見、近所のお宮に梅の見物などに行っている。また、家族やボランティアの協力を得ながら外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が外に自分で買い物に行ったりすることは難しいが、その方の希望に沿うようスタッフが買い物に行くこともある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をホームから掛けることもできる。また、外からの電話は本人につないでいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	たとえばトイレには「トイレ」と言うより「便所」と言われる入居者が多いので扉の前には「便所」と明記している。また、空調も、直接風が当たらないよう、座席の位置も配慮している。	リビングには、季節に応じた飾り物を作成し、飾ってある。利用者の写真や作品が貼ってあり、家族に喜ばれている。職員の声やテレビの音は丁度よく、日差しが強い時はカーテンや席の場所を移動して、過ごしやすくなるように、配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人が好きな方、仲間がいるほうが好きな方と様々なので、思い思いに過ごせるようにソファに座るときの位置や、食席の配置にも気を配っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた愛用品を持ってこられたり、御家族の写真やはがきを飾られたりと自分なりの空間を作っておられる。	利用者のなじみの写真・飾り物・縫いぐるみや仏壇等を持ち込まれ、その利用者らしさの居室づくりを行い、家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごすことができるように配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子をとっても、その方の姿勢、能力に応じたソファや椅子を選んだり、洗面所の前に椅子を置き、座ってでも洗面が出来る方にはしてもらっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[ゆっくり、ゆったり、穏やかに]の施設の理念に基づいたサービスを実践し、入居者様に寄り添った支援に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや敬老会など地域の方を招いたりして、交流を深めている。また、地域の行事にも参加できる方はお連れし、一緒に楽しんでもらっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様の日常支援を第に考え、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか考えているが実現には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、事業所の取り組みや、具体的な改善内容を話し合っている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政の方に参加して頂、意見交換を行ったり、必要時にはその都度連絡を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本拘束のない利用者の安全確保を第一に考え、抑圧感のない暮らしを支援している。しかし、どうしても安全が確保できない場合同意書を取りベッド柵の利用を行っている。（複数）		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者が事故のないように、会議の中で問題提起を行い検討している。また、見守りに努め、精神的虐待、言葉の虐待等の防止に注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開いたり研修に参加して得た知識をいつでも生かせるようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、ケアプラン更新時や面会にこられた時に話し合いをしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度行事を行ったり、外出する機会を設け、その際できるだけ御家族の参加を呼びかけている。そんな行事の際や面会時に会話の中からご意見を聴くよう心がけ、また、定期的に家族会を開き、意見交換できる場を設けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度スタッフ会議を行い、入居者様の状況や現場の実情を報告し、意見交換しながら改善していくようにしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人に負担がかからないように、各委員会を設け、仕事を分担し職員同士が協力して仕事を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の多様な個性を尊重し、個人個人の能力を発揮でき、向上させる環境作りに努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者様のこれまでの生い立ちや家族構成などを認識し、それを尊重したサービスが出来るよう努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人1人の個性を尊重し、事業所内外の研修を受け、技術や知識を身につけている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所外で行われる研修を受けに行き、同業者と情報交換を行い、サービスの質の向上へつなげている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、入居者様の意見をお聞きし、楽しく快適に過ごして頂けるよう、また入居後も、会話の中で情報収集しケアプランにあげて耳を傾けるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の状況を伝えながら、ご家族が困っていること、不安に思っていることを聴きながら支援策を考えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で徐々に馴染み、安心して利用できる様聴き取りを行い、ご本人御家族の意向を確認し、それを元に支援やサービスを検討、支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーション、洗濯物（干し、たたむ）、食器拭きなど一緒に行うことで、一方通行にならないように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事会、夏祭りなど本人、ご家族、職員と参加して行い、関わりを持つ中で互いの関係を築いていけるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に一時帰宅、または外泊されるときは普段の状況をその都度伝えている。また、帰所されたときには自宅での状況をうかがっている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席ソファの座る位置だったり、体操のとき号令かけなどしてもらっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となるのは長期の入院がほとんどなので、スタッフが面会に伺ったり、亡くなられた時には、お別れに伺い、思い出話をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る範囲で本人様の意向を尊重し、関わりを持ち取り込んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族、ケアマネ等に聞き取りを行い、また、本人の言動など把握し、その中から本人がより良く暮らせるよう支援が出来るように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時々において出来ること出来ないことを総合的に見て、紙ちぎり、新聞折、塗り絵、体操、歌など、個人の生活のペースに合わせ支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には生活の中で、ご家族には面会時に、医療的なことは往診時に聞き取りや相談を行い、それを踏まえてケアプランを作成している。職員も情報を共有し、介護計画と現状を把握し、スタッフ会議の場などで、その時々を検討実践している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録だけでなく、申し送り、スタッフ会議等の場において情報を共有し、より良いケアが出来るように努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズ、習慣を把握し、個別ケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園児の訪問、メイクボランティアなどの協力の下、豊かな暮らしを楽しんでいる。ただけよう取り組んでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々の主治医への受診は基本であるが、様々な理由で出来なくなった場合、ホームに往診に来てもらっているDrに往診してもらっている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で見られる些細な変化など報告、相談を常時行うよう努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は日々の生活や病歴をまとめた情報提供書を渡している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や家族会で終末期になられたときのホームの対応を話し、ご家族がホームでの最期を希望される時には納得されるまで話し合いを行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、対応についてマニュアル化している。火災等避難訓練については入居者、職員参加の元実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を定期的に行い方法を確認している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おばあちゃん、おじいちゃん」ではなく、個人個人の氏名で呼び、トイレや人に知られたくない事柄など、大声で人前で話さないよう気をつけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しましょう」「～します」当スタッフ側で決め付けてしまわずに「どうしますか」と本人の意思を確認している。なるだけ無理強いない。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、希望に合わせて可能は限り1人1人のペースに合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方にはして頂、できない方は髪を整えるなど支援している。また、メイクボランティアに来ていただいたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの面はなかなか難しいが、食事形態をご本人にあわせること、片づけを手伝っていただくことは出来る範囲で出来ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、食事形態、水分摂取は個人個人に合わせ対応している、疾患による制限食も考慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけ、介助等を行っているが、拒否がある方、出来ない方については完全には出来ていない面もある。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心がけ、おむつ類も出るだけ無駄のないよう使用している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動に関してはあまり行えていない、飲食物や、内服によるコントロールはある程度できている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	拒否がある方に関しては難しい部分もある。しかし、出来る限りはご本人の意思も尊重したり受け入れやすい時間帯も考慮し配慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい方には出来るだけ休んでいただいている。夜は睡眠習慣を考慮しつつ支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識はまだ得る必要があると思う。また、より確実に服用していただけるようにチェック表、研修などに努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外に散歩に出たり、歌を歌ったり等行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人外に出る支援はなかなか難しいが、外出レクや行事での外出は行えている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人自身が使うことはほとんどないが、ご本人の希望により職員が買い物に行くことは行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる範囲で電話でお話をされる等行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、光、色など落ち着け快適に過ごせるよう配慮できている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居様が落ち着いて過ごしていただけるよう食席等の配置等にも気を配っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるもの（カラオケの本など）があり、居室でも歌を歌われていたり、化粧をされるなど居心地良い部屋となっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態の不安定な入居者様に対して、ソファ等を利用し自分らしい生活が遅れるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない